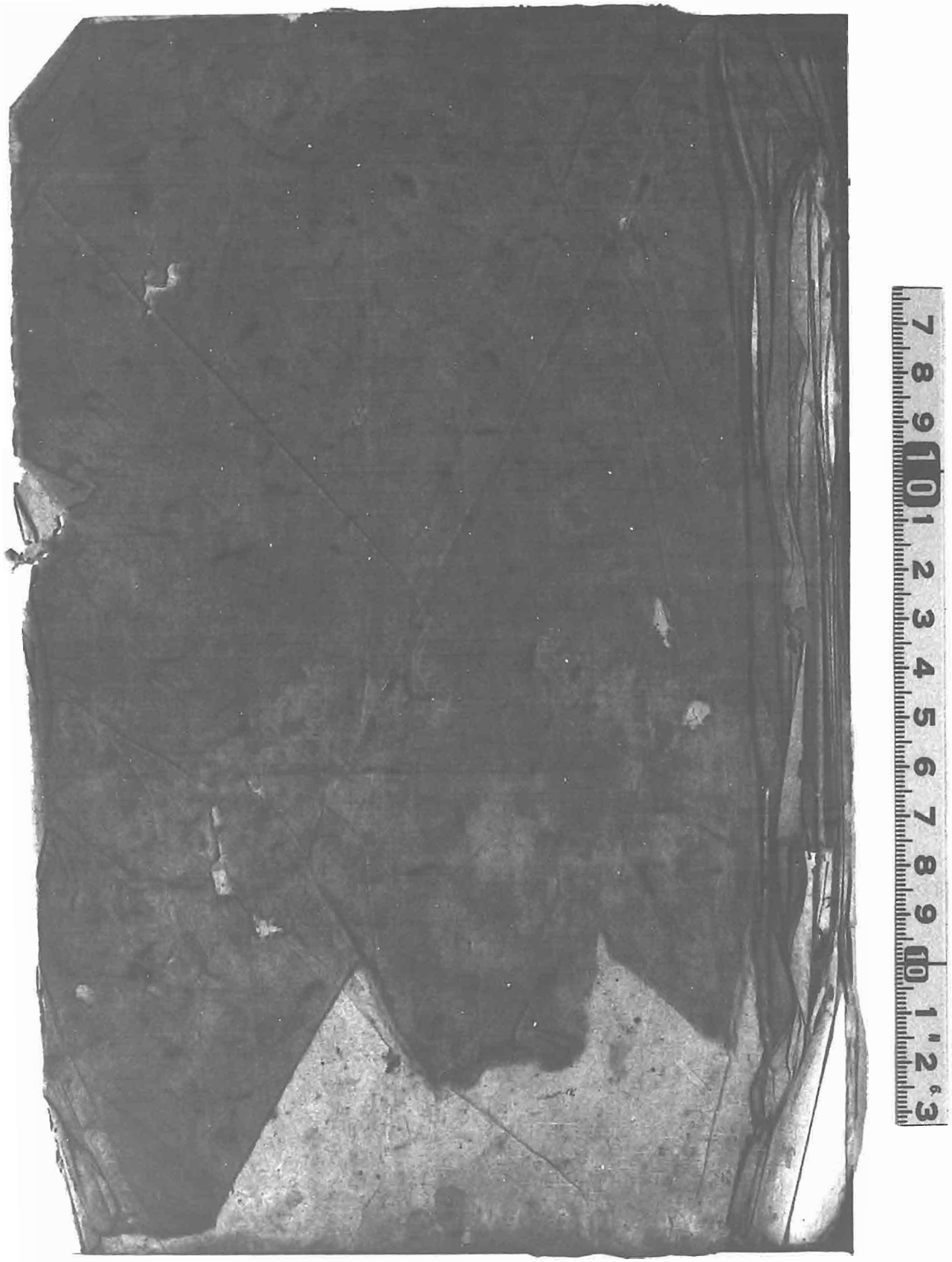
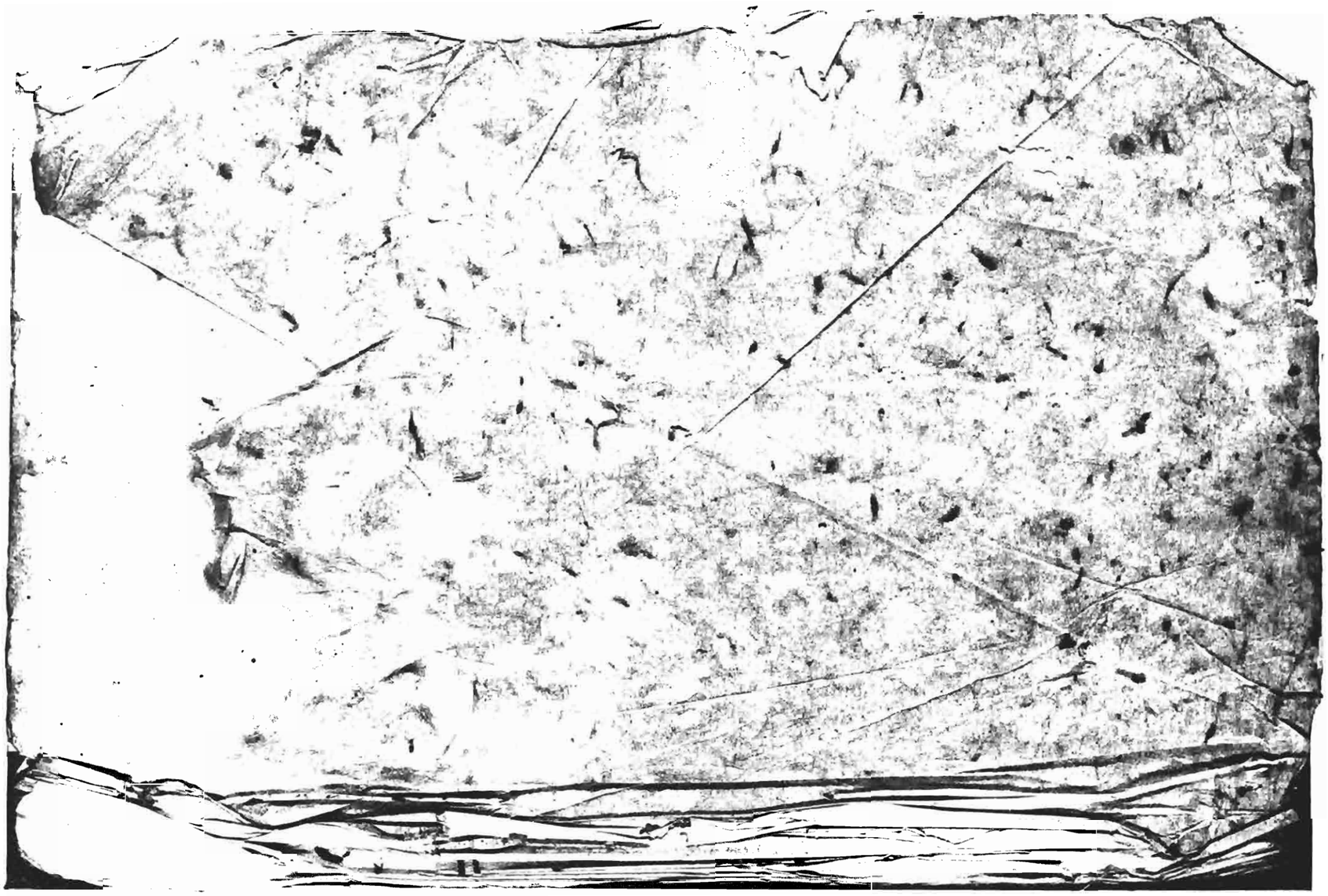


【史料カード】

ＳＥＱ番号	0002890
所蔵元別 分類番号	琉球大学附属図書館所蔵 宮良殿内文庫
史料番号	２６２
標　題	兼題集
年　代	
西　暦	
形　態 （数　量）	１冊
作成者	
宛　名	
リール番号	
コマ番号	
注　記 （内　容）	俳句・短歌集
※特記事項	

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library



Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

六月 蕭門

初蟬

初蟬に九世思ふて涙かな

初蟬や一刻ぶれたる泣きぶけるる

初蟬に涼しく泣る岡山

初蟬や利根共に[illegible]

初蟬の[illegible]に涼しき樹かな

初蟬や法師の袖に泣きにけり

八七六五四三二一

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

九　初蟬のうたゝ[illegible]

一〇　初蟬の巻相國[illegible]庭の松

一一　初蟬[illegible]

一二　初蟬[illegible]

一三　初蟬[illegible]

一四　初蟬[illegible]

一五　初蟬[illegible]

一六　初蟬[illegible]

一七　初蟬[illegible]

一八　初蟬[illegible]

一九　初蟬の[illegible]

二〇　晩蝉に味[illegible]

二一　夕影の庭に風[illegible]

二二　晴脱ぎて[illegible]

二三　言はれは[illegible]

二四　涼みは蛙の[illegible]

二五　庭の光[illegible]

二六　情[illegible]

二七　[illegible]

二八　[illegible]

二九　[illegible]

三〇　[illegible]

三一　[illegible]

[illegible]に人[illegible]
三夜五ケ月まで見へず遠る[illegible]
四月は漏る落葉も多し[illegible]

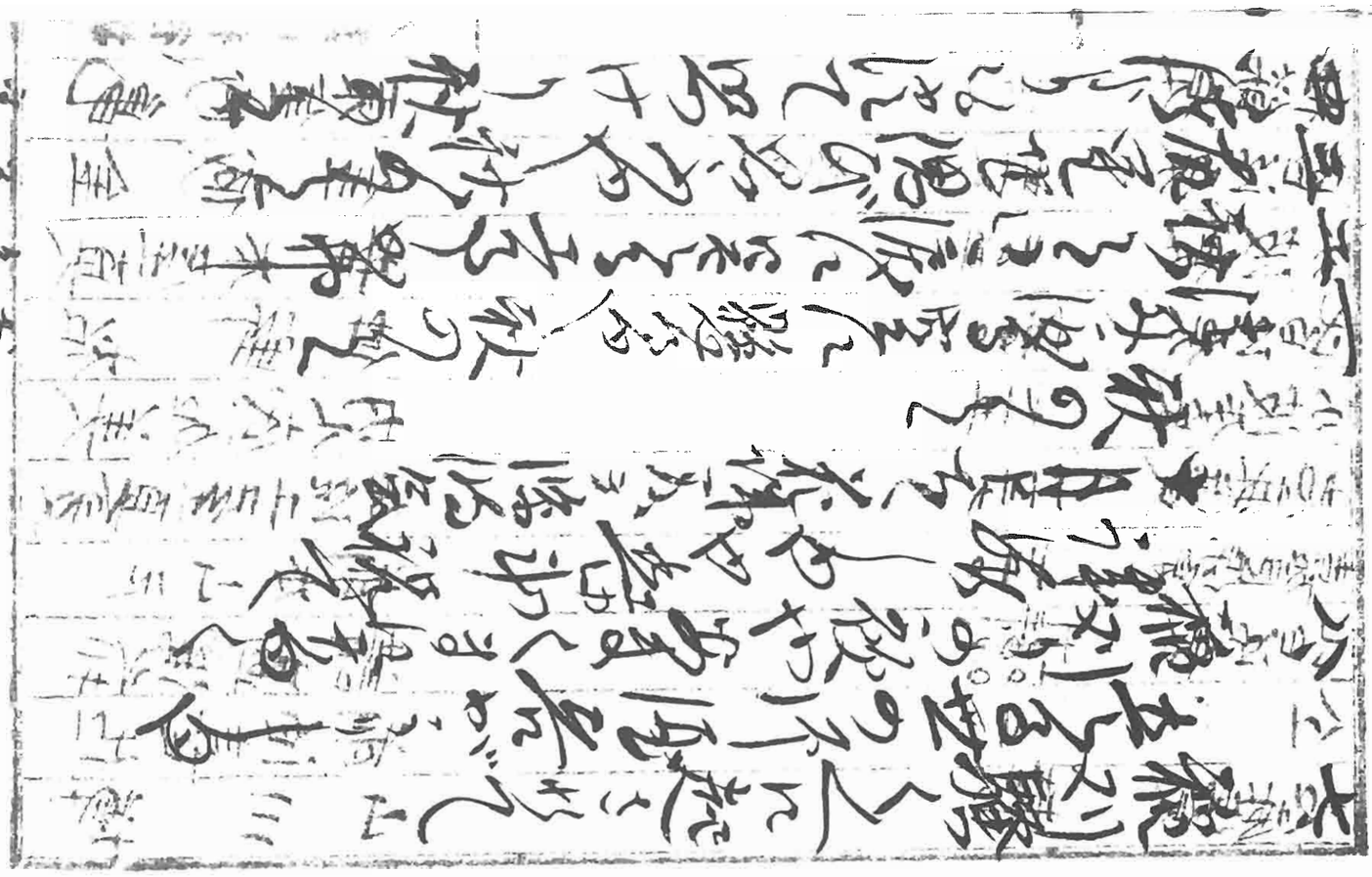
單衣

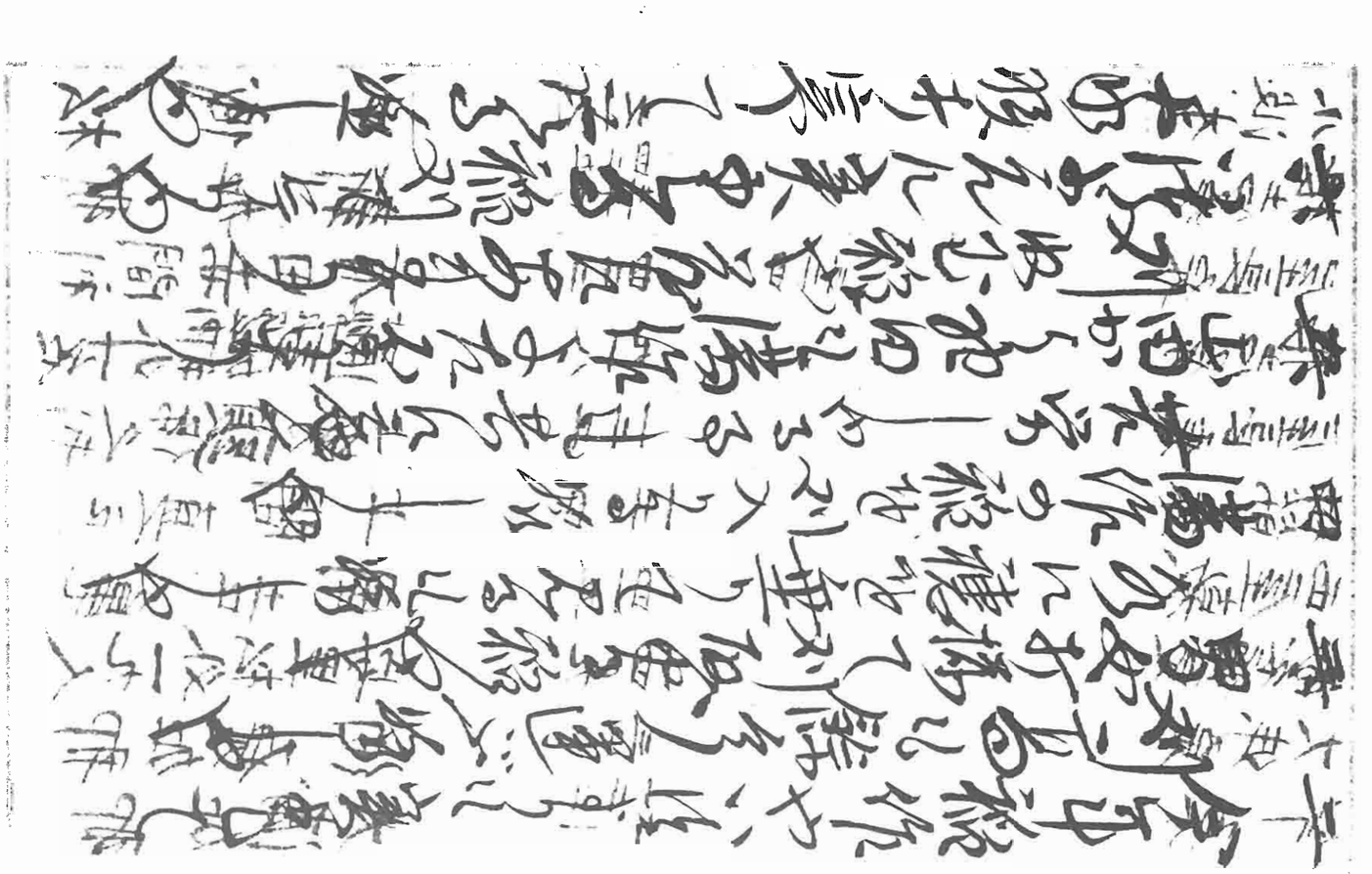
下着けんれば[illegible]
公園の花に[illegible]
[illegible]
四月末[illegible]び[illegible]
[illegible]
[illegible]

長[illegible]
八月着けんれば袂そで[illegible]
九月中旬[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]





Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

三　拾月ゝあと上ゝたゝ
四　夕ゝ今ハ秋ゝ
五　ゝ居ゝ月ゝ
之　見とゞゝ
七　一ゝて
八　陽川のゝ
九　地ゝ
十　ゝ
十一　ゝ
十二　ゝ
十三　ゝ
十四　ゝ

苔山　月山　雨雲　花山

十五　ゝ
十六之　ゝ
十七　ゝ
十八　ゝ
十九　ゝ
二十　ゝ

月山　高雲　雲山

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

天　二　いわくと海ちかくなりて西くら　西山
　　らみしいわいとぐ新の初春
山　三　惜んぬ花の名ま　みなとの西のつら　嘉
　　花ま稽ま　君ぬ海
　　三　ひゆくうしの名　ちづりうしの名　ぶ
　　身ぬ名や　ちんの名　ぬあらし　海
人　四　三人ぬ名や　ぬ　西
　　らづて名ぬ　ぬ　海
　　大白三年　て　と　蓮　海
一　花の名

地　三　五　一　山

一　花の名　ぬて　ぬの名　海
二　花の名や　老花　に　海
三　井戸　花の名　ぬ　海
四　花の名や　ぬ　海
五　花の名　海　海
六　花の名や　影　映り　海
七　花の名　ぬ　海　海
八　花の名　ぬ　初　海　海
九　鼻の名　ぬ　海の八　海
一〇　花の名　ぬ　海の初　海

一二　若みや流てさすらはるけり　平山
一三　若水や　月へ出し　馬酔木の　蓬
一三　一張の若みや　雲の服の人　常松
一四　若水の彩よ　流れの初日の　苦山
一五　若水や　泊んでいし　陰さけり　春光
一六　若水や　老し　姫し　乳　春光
一七　若水や　寿　和て　若　春光　平山
一八　秋つよ　降　高　春光　平山
一九　若みと　泊　物色し　春光　平山
二〇　時ぬ　若みや　泊　色し　人の　春光　平山

初夢

一　何　迷　迷　若　初の　人　春
二　初夢や　五　春の　泊て　さみ　春山
三　初夢や　笑へ　也　春　春　平山
四　吉兆の　初夢　れ　て　春　初　平山
五　初夢や　歌　彩　初　黄　春　翠山
六　初夢や　さ　て　こ　こ　丹　春光
七　初夢や　七　福　仲　の　色　て　春光
八　福仲の　奥　法　ひ　き　初　春光
九　初夢や　笠　の　高　考　五　て　翠山

川　地一一　二

一〇　初夢やとを福神にはかはして　岸柳
一二　初夢や古傾ぢたのむ光源　其山
一三　初夢や初音を掬ふ舟流し　乎山
一三　初夢や色香ふ遊ふ袖の石　苦山
一四　初夢也占ひ見ん百一位　岸柳
一五　初夢や爰でよろぶ4代の松　傳家
一六　初夢の治姫ふ四つ　素庵
一七　初夢ふ千年と伝ふ長蘇の風　乎山
一八　初夢やり紀つの初つ恵比寿さま　耳翠
一九　初夢や福の神ふて来けり　耳翠

三　人　二山一五

二〇　初夢ふ見ぬ日の和加の印　耳翠

猫

一　親ゆりしを見ぬ子の猫見の印　岸柳
二　産つる業ふ小猫ふ飛ふ出ふ信ふ　翠山
三　山猫猫ふ和ふ引きて人ふ出せる　苦山
四　盗人ふ猫ふて和の和ふし　傳家
五　数やかう言ふ見ぬ尺猫の足　翠山
六　しやがひ子ふ出やがてばつと飛ふ猫ふ　乎山
七　夜帯風ふ灰ふ入みとり小猫の印　素庵
八　花の主ふ猫ふ猫の氏　素庵

三川　四　地

九　猫ゝ死ぬ度ごとに猫のさわぎ哉　春雄
一〇　猫の子の目の開く頃　信子
一一　猫の子を抱り過ぎて遊ぶ哉　翠山
一二　日向出てすやすや眠る小猫哉　幸信
一三　慣れて書を読む小猫かな　苦山
一四　惠比寿のやさしき猫　信子
一五　亀と足をそろへる猫　苦山
一六　晴れ言ひ汐ひとすれば夜明猫　春雄
一七　首枕輪の鈴ゆ猫ぬ出ぢ　翠山
一八　花ぬ出て風ぬ見ぬ小猫かな　信子
一九　庚申と仔ぬ出ぬ小猫かな　苦山

又　猫の子の抱り過ぎて膝の上　苦山

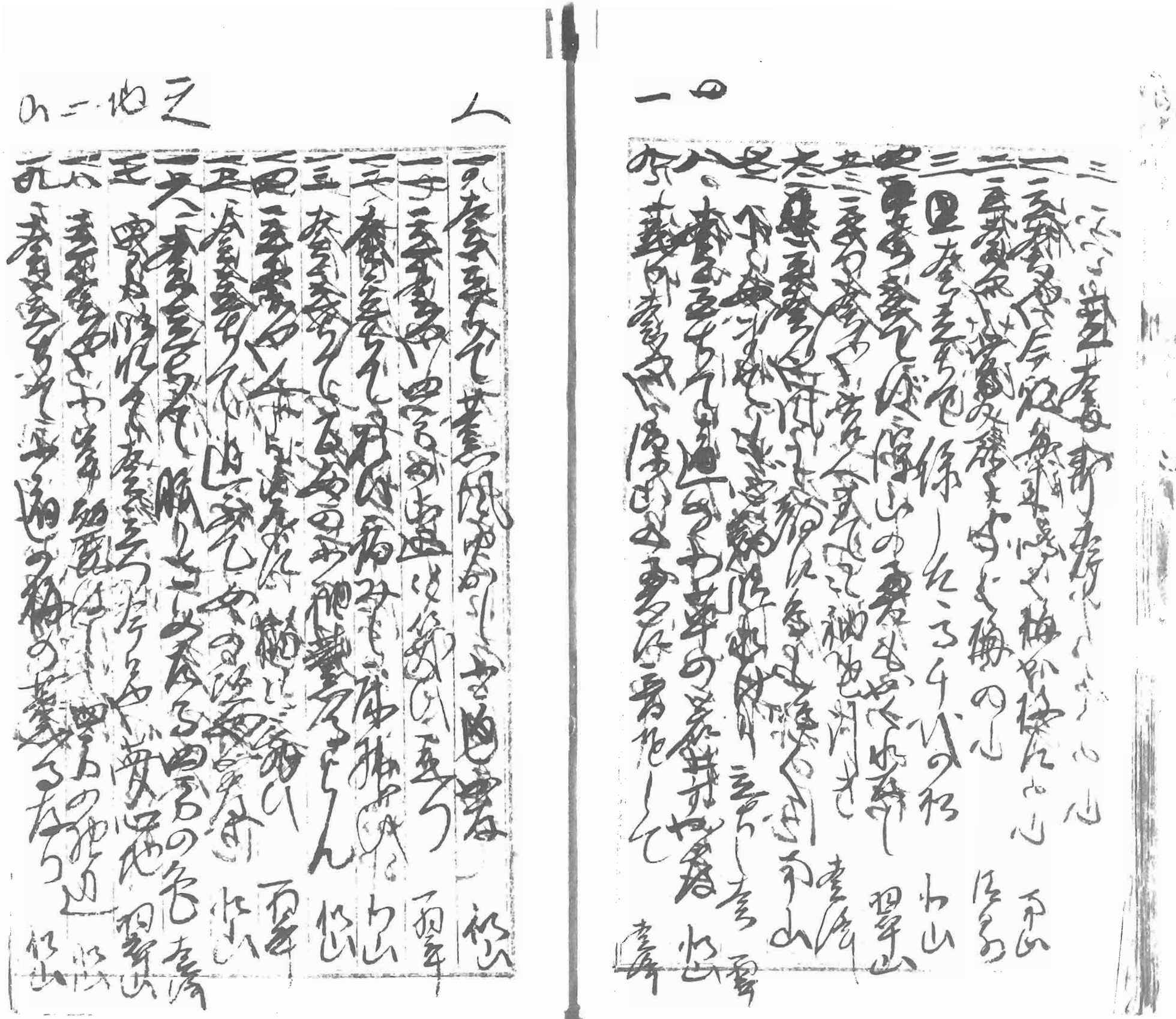
五　義経　信歌

一　義経ぬ義仏ぬ義経の麦尾　信子
二　義経の知らぬ人の数さくみ　苦山
三　義経ぬ宵ぬ花のわらび　苦山
四　義経ぬ義仏ぬ義経ぬ　苦山
　　なくくと鳴る信濃さくみ　春雄
　　背ぬ背ぬらん義仏ぬ義経ぬ　春雄
　　義経ぬ涼しさ　信子

三五　兵衛尉ねんとすて云ひなるゝ事　作家
天と地や隠み義理の作世
五六　義理や世の中隠たら人の　作家
善一悪一は方ら上下ん
四七　たとへ右作や心
義理やすいかん悪世でこの　作家
人八　かじは世ん海の作らすみ　作家
義理の世ん黄金や言葉さくみ
九　義理の道守て作世なたやさく　作山
作て上下ん地ぶくりの作や

天　二　一　九

五　苦ものさ作ん義理の道作り
二二　請文ん作ん作世　作山
二一　作世ん作ん作世の大作
五　道の作ん作世の作
三　義理の作ん作世の作　作松
三一　義理のたの言世や作山
六　義理世ん作ん作世　作松
四　作世ん作ん作世



Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

をもあさ山ぶきにつみそへてはへらんに初花をうゑんに時鶯
さはへの花にもとをりかへしけり
をうつしうゑしなこまはなにけりうぐひすは
いまはうゑしの初花をつみはやす
千とせ門つくみのわかの花つみはやす 勝道法
ひとのかけさへわかるらん
をはなをなをこの春のあけぼのつむせりをと
三 はしとかけたまふらん
をあひつる春はきのふの花をつみ
二 春の花をつみもわかけり 長谷川忠

をあはれ世人 君は春をしらか 岩本実雅
春まの花をつみはやすなり
をの初花をなの部にさけなん
かけのかはらんひさかたの
をいかはしは春のあはりとけそめて
つむまとる
をはるかにすきあの河せり 之繁敦
をはるかにすそのしてをとめらか
春の花ひの花をつひなり 藤原敦宣
をあはるの春色のをとけそめて
しえいそにけりせりしすなし 高安隆事

○川辺花のさてうつしたるつゝ山の空
　岸のわかなをつひそ楽しき
　ふるゆきのつゝみのわかな影さして
　四のそはにしかさはれけり　きく人
　をとめらかわれなとらしてはなをしと
　ふしもそ思ふらしてわかなつひなり　きく人
　春風やゆきこけのうちにもとめまし　岩瀬
　はすそ思ふらしてわかなつひなり　岩瀬
　妹の家門をのそかはしてゆけて　四条宮
　陸奥のそてのわかなつひなり

○見えそむる春の若草なをしの色の所変　西園
　をこゝ山わけてつひそ妹しるし
○ちらうらとのとけさ春の川のきえ
　若草つひしかりけれ　高瞻
○天のはしたて若草つみはやしつ　岩瀬
　おいは如若草をこそ　りんさんてうたて
　　四月社てうを　紀吉
　　大江朝臣
○年くれはよのまのゆきさえ来ゝ
　おさしかへらすあさ日さしそ　高安有常

とまかしの風のおとさへうつりもれて
しつかにつゝるけさのゆきかな　大隅守
雨そそへたるまつのえたさへたわむまで
けさはつらしくて至そつゝ降る　左近衛殿
七夕
よひのまのあしのおとしつまりて
けさはつらしくゝ降るしらゆき　藤原定
冬
わかれはのさすを忘れかちはつゆさは
あさ風さはまの花とさそふ風　冬人
かとの戸をしはしなあけそと人の影
あとしやつけん今行のみゆきに

冬
あさ日さしそ見れはやきつゝ
にはしろたへに見つゝる雪かな　冬人
冬
月にあかしかけしきしあたらしく
見るはあさのあしたなりけり　高倉院
冬
同風社　三首
雪
○あさとあけてむかひの山はなかもれは
雪にまゝへりまつのしらゆき　冬人
冬
けさ見れは山のやまはの雪の
雪にわかるしらゆき

○いさましく今ぞ行くなる雲をこそ
　まがいのにはにやどをさなすい　[illegible]
　紅葉をかけて見るこそ珍しく
　さかりなりけれ　中務卿
○[illegible]
　雪の消ぬ日はさきそはやひばれにけり　[illegible]
　れしー[illegible]　山階宮
　紅きまめとそ[illegible]
　[illegible]
　つれそめけり　[illegible]

弁の内侍歌合　[illegible]
　君元象　[illegible]
○元の川風の花のさとたいん月　[illegible]
　佛やちやうん[illegible]
○西さかりてれしのきやるてし　山階宮
　[illegible]
○行く行月さてさいめくりく　山川紅葉
　めくて振[illegible]
　[illegible]
　[illegible]
　行り[illegible]

和　之の見せさう稀に云わちと　　[illegible]
所の弱又さし出さくみ
後で見るの影に一月九ちやさんの
おしかけやうして行んすりて　　[illegible]
多　言にみちおまう落至　　[illegible]
[illegible]しの公のはてるないらぬ　　[illegible]
[illegible]ちの[illegible]もり　　[illegible]
一　[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

三吉君に贈て

この浮世とり消法のいつまでとくちゆゑ　金陽館義

琴の言んてきのかくみとちやす

世をうるさしみかたの色に宇瓶の　主人

住吉の松たり世さきのやゝ

人　天満のたかれ生涯ひとつ　知名和彦

契りかたるつのはしら

信ひ君たちなけなり分にきすしつゆ　岩本千代

かくみ出たすやうくるかいさも

秋三かたつかられ家のたよ出る　長谷信直

十年の昔の言葉くたちゆと

流　点のあたるたる表　長谷貞

たるいさせしやせきのやゝ

名　桜のしたかけれとと　山伏宏

おるまきすらかのやせきのやゝ

住　三角ちひきやるとかし世の出とし

かけちつちにやるとのやゝ　金陽館義

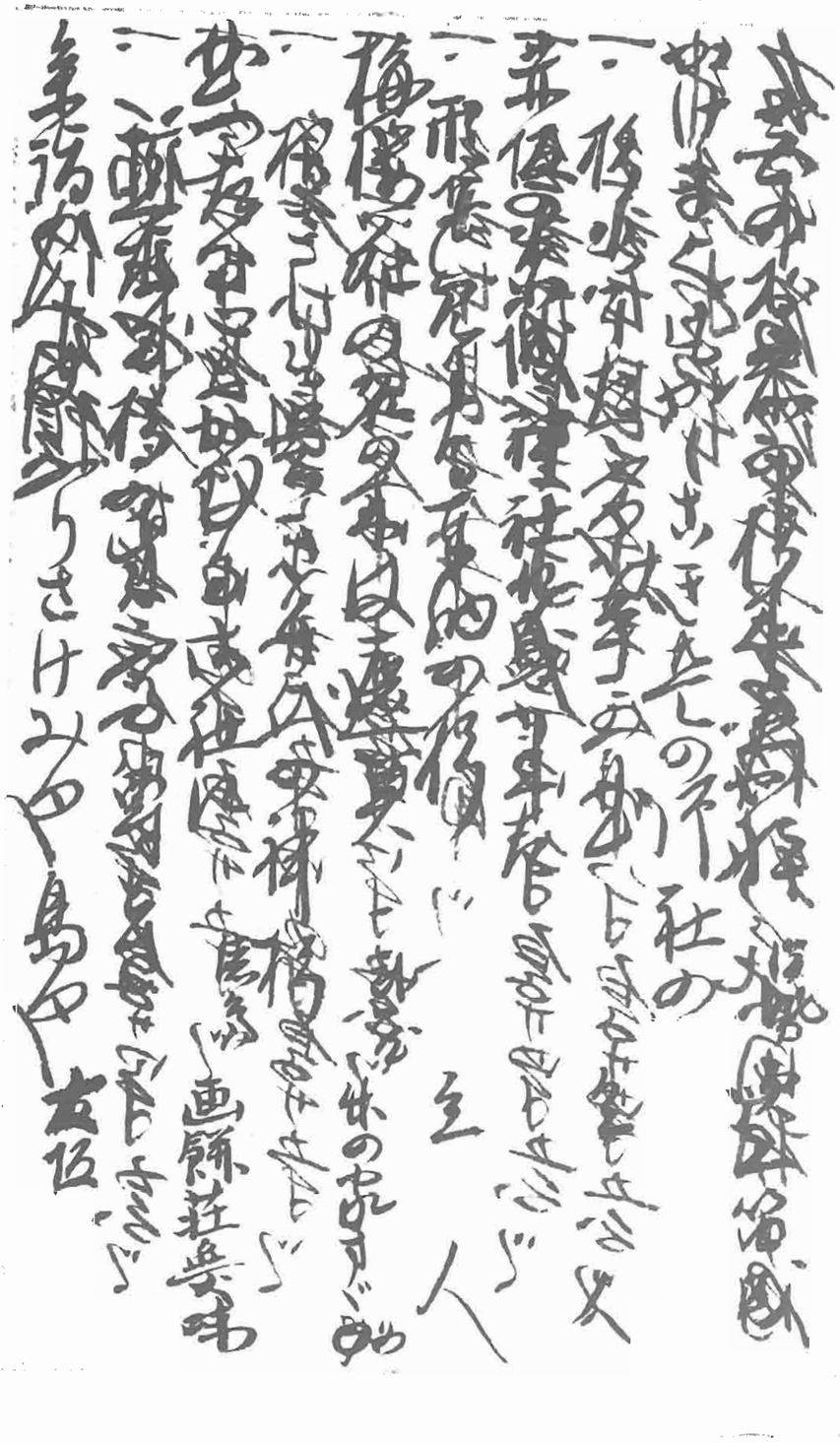
変人の生言やかしふしくあ

くつあたる人の言帝なと　横倉全花

いつし花の桜かもいかし赤壁

勝軍しちやるくのいさを　[illegible]
[illegible]
てきの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

作

歌

作

歌

琉

百

百

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

[illegible]年五月八日のはるかなるをしかへて
[illegible]
[illegible]
大天の二年たちにけりわかの影　仲お十三
[illegible]
[illegible]
[illegible]

生ひたつ杉はおのに繁しき　　仝人

弁の内侍の位はおのづから

苔むすまで杉も高れり　　仝人

白雲に苔の衣を重ねつつ

なほさびたる唐の糸の杉　　仝人

唐糸も腐腐からまでもにけり

神さびたる杉のしけりて　　仝人

秋なる次代長かれとぞかつて

一　鄭[illegible]　　仝人

のとかなる[illegible]ありさうもれ

年そしを花の名所[illegible]

[illegible]の神代なりし大[illegible]

[illegible]

[illegible]神のみたまや守るらん　　仝人

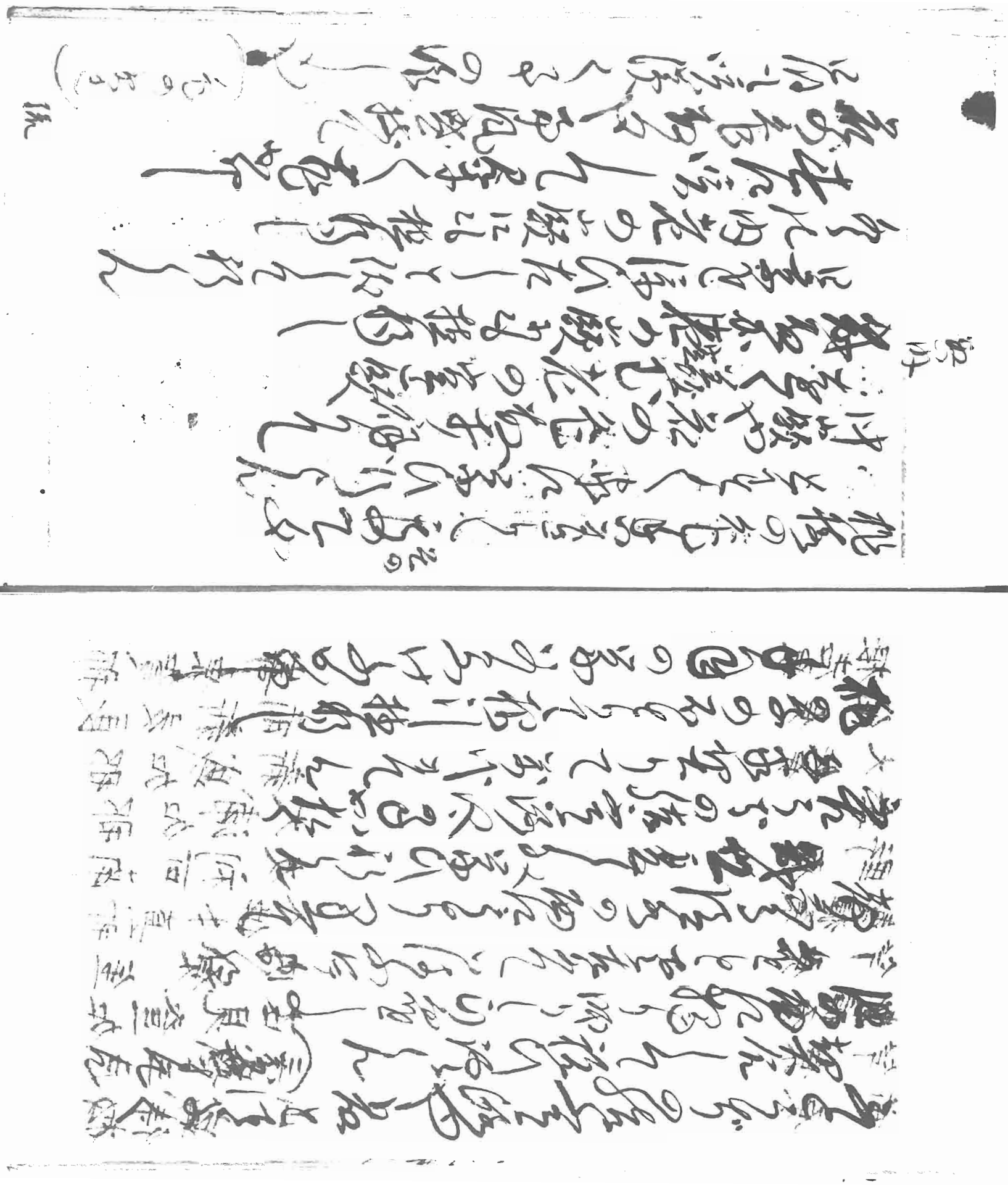
神ひたすらのみ社の杉　　仝

[illegible]

仝　伊勢の宮居の杉の[illegible]

[illegible]

[illegible]

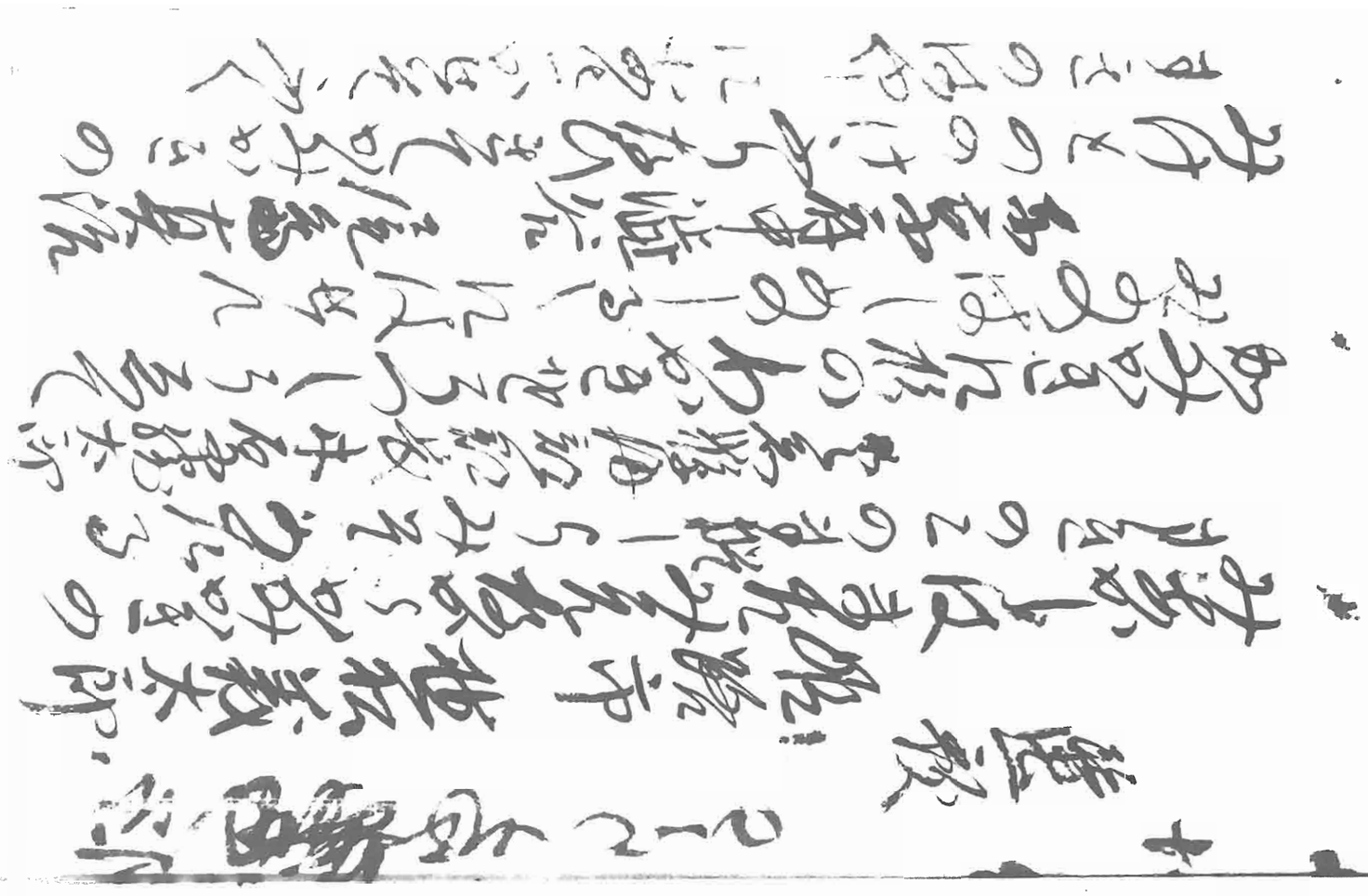


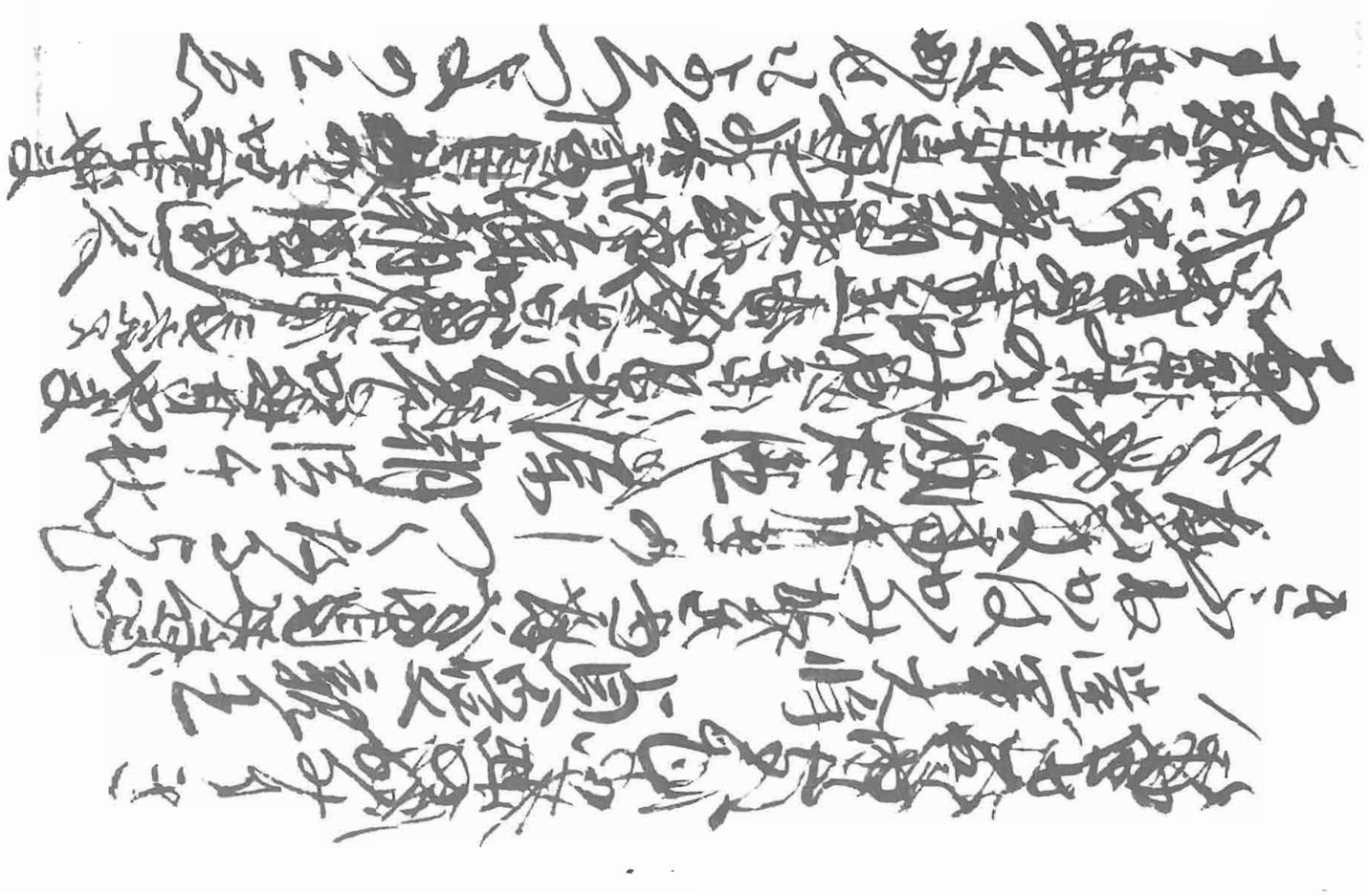
Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]





Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

[illegible]馬將中修四　井上亀佳

ちよへたるすきこゝろのかけもなし
みたらしのはのきよさなかれは

[illegible]　福長近信

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小舟より降りしけれは家の主人
高のたかのつはさやすもる
為国の年四世世へて
しまつかさ我か山里に寄りけり
むかへらるけしきそうれしかりける
浦世
親にわかれ子を失なへる侍さうら
なはれはかなき浦世なりけれ
古塚
公事上に年の氏の義り人と

仁
義
於

侍には浦々古塚あり
大つ三ヶ所ともに琉球の法なり
三大会義は
安名高紀大人
浦会市信
長寿なる者のかしらなりて
みとり深きものやさみ
孝
者の子孫八四五人に成て
孫、曾孫のみとりさかやる英さ
四月吹流る英氏の者風に
浦会
紀瞳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日曜会二月一日詠

[illegible]

[illegible]

[illegible]